

生活者 せたがや

No.137
2016年
8月1日号

市民と議会・行政をつなぐパイプ役として
地方議会に議員を送り出しています

編集・発行 世田谷・生活者ネットワーク 代表/佐藤里子

〒154-0021 世田谷区豪徳寺 1-20-7-101

TEL: 03-3420-0737 FAX: 03-3706-1744

email: setagaya@seikatsusha.net

http://setagaya.seikatsusha.net

生活者ネットワーク
3つのルール

1 議員は交代制
(ローテーション)

2 議員報酬は
市民の政治活動に

3 選挙はカンパと
ボランティアで



入口ホール看板の前で
田中みち子・高岡じゅん子

ちいぎの困りごとを 一つ一つ丁寧に考える。

新しい自立支援の拠点を視察しました。

三軒茶屋駅そば「ぶらっとホーム世田谷」を知っていますか？平成27年の生活困窮者自立支援法の施行に伴い、モデル事業として社会福祉協議会が受託、全国で本格実施されるようになった生活・金銭の相談所です。「働きたくても働けない」「住む場所がない」「子どもの受験費用に困っている」など、昨年度の相談件数は二万件以上にも上りました。就職あっせん機関を紹介する「世田谷お仕事マップ」の発行、引きこもりがちな人のための居場所「ぶらっとカフェ」の提供、学習支援「せたがやゼミナール」も行っています。

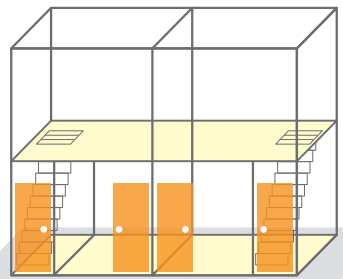
今年4月、下馬にリニューアルオープンした「ケアセンターMILK」は、高次脳機能障害のリハビリ施設です。ボランティア協会の独自事業なので、65歳を超えて自立支援法が適用されなくなっても、トレーニングをずっと継続していくことができます。1階には広いキッチンがあり、近所で集まってくるワンコイン(500円)夕食会など、リハビリの二環として地域とつながる場を提供しています。



1階ガラス張りのおしゃれなカフェの前で

世田谷で広がっている 重層長屋の問題

重層長屋は、共用の廊下や階段がなく、すべての住戸入口が1階に並び、ひとつの建物に多世帯が入る賃貸用の投資物件です。区は平成25年から条例を改定し、旗竿状敷地



で4戸以上の重層長屋に対し、駐輪場所やゴミ出し場所の確保などを義務づけ規制しています。しかし、行き止まり道路の先端であっても2m接道を確保すれば旗竿状敷地とは見なされません。駐輪やゴミ出しなど入居後の管理が問題となるほか、災害避難時に住民が玄関ドアを一齐に開けると逃げ道が塞がれてしまう等、大変危険な構造です。このような住環境の悪化を招く重層長屋についても条例等を整備して指導すべきとし、早急な対策を求めました。

都市型水害への 備えは？

昨年5月の水防法改正、9月の関東東北豪雨などをうけて、洪水浸水想定区域が「想定最大規模の降雨」によるものに拡充されました。世田谷区内には、大規模洪水による新たな浸水面積が、これまでの想定約1.7倍となる場所もあります。

5月21日砧公園で行われた「合同水防訓練」は、集中豪雨などによる都市型水防のあり方を多くの区民と共有できた、とても有効な機会でした。市街地の浸水被害は「ダンボール&水入りポリ袋」「ビニールシート&ポリタンク・プラントナー」など身近なもので対応できることを学びました。このような水防訓練を区内全域で実施するよう求めます。



かまどベンチを点検する
田中みち子



訓練に参加する
高岡じゅんこ・西崎光子・田中みち子

毎月第3木曜日は、 世田谷ピースアピール!



平和を大切にしたい思いを、市民が自分の声で訴える活動です。心に残ったコラムなどの朗読もしています。飛び込み参加や、朗読のリクエストも歓迎。

新しい地域交流の場「くつろぎ処 おおがいさんち」

祖師ヶ谷大蔵駅そばに住む会員が、NPO法人ACT(アビリティクラブたすけあい)の助成金を受け、自宅をコミュニティ・スペースとして開放しています。運営するのは、ご近所の多世代が困りごとを相談しあう「砧むらおばちゃん会議」。月2~4回、昼食会やお茶会をしながらおしゃべりし、時には有志の企画で体を動かしたり、幼児に絵本の読み聞かせをしたりと、とてもにぎやかに集っています。高齢者と若者世代が助け合い、互いに幸せに暮らせる地域をつくることを目指しているそうです。お近くの方、ぜひご参加ください。



オープニング・パーティで自己紹介

次回予定 8月18日(木) 18:00 ~ 下北沢駅前
小雨決行 9月15日(木) 18:00 ~ 三軒茶屋駅前



区議会議員
高岡じゅん子

- 羽根木一丁目在住
- 生活者ネットワーク世田谷区議団 幹事長
- 区民生活常任委員会
 災害・防犯・オウム対策等特別委員会
- 環境カウンセラー

**第二次男女共同参画プランは
 効力のあるもの!**

区は、平成19年度からの「男女共同参画プラン」に基づき、性別に関わらず一人ひとりがその人らしく生きられる社会の創出を目指してきましたが、その進捗状況はとても評価できるものではありません。例えば、政策決定に関わる女性の比率について「区の審議会等に女性の占める割合40%」という目標が掲げられたにもかかわらず、この8年間でわずか0.1%しか増加せず、現在でも28・8%にとどまっています。

6月から検討が始まった新プランは、委員の選定に女性枠を設定する「クォータ制」など、全庁が一致して思い切った方法に取り組みべきだと思います。その他「ワークライフバランスに配慮した事業者を契約入札時に優遇する」「思春期の親密な関係で起こる暴力支配を理解するための『デートDV出前講座』を全区立立中学で実施」「女性の視点に立った防災対策」などを提案しました。

**区庁舎の改築は、
 区民合意を積み上げて**

4月から、区民13人と専門家7人による「本庁舎等整備基本構想検討委員会」が開催されています。7月13日の中間報告会を経て、8月中旬に素案が発表される予定です。自民党などの党派が全面改

築を主張しているのに対し、私たちは第一庁舎など一部保存をして現在の中庭の景観を残すよう求めています。

5月にユネスコ世界遺産推薦リストに載った国立西洋美術館と同じ流れをくむ前川國男氏建築である庁舎を、「協働・交流により区政を推進する拠点」というコンセプトとともに継承することは、世田谷の文化の象徴ともなります。

区民参加の委員会でも、スケルトンリノベーション(既存の骨組みを残し、設備や内装は撤去して新たに作り直す改築により改築時のCO2排出を大幅に抑え、廃棄物をゼロに近づける「ゼロエミッション」や、最高ランクの省エネ性能などの要望が上りました。生活者ネットワークは今後もさらに丁寧な区民合意を積み上げるため、経過報告の出張説明会や意見交換会の開催を求めています。



区議会議員
田中みち子

- 砧一丁目在住
- 生活者ネットワーク世田谷区議団 政調会長
- 福祉保健常任委員会
 環境・空き家等対策特別委員会

**世田谷区内の
 貧困の子どもの実態調査を!**

日本の子どもの6人に1人が貧困といわれている今、生活者ネットワークにも「お風呂に入っていないような子どもが近所にいる」などの相談が寄せられています。平成25年に「子どもの貧困対策法」が成立しましたが、何が最低限の生活レベルなのか、社会的合意がないうままでは実態をとらえることができません。EUでは18項目の指標(サイズの合った2足の靴、年齢にあった本やおもちゃ、お金がかかる学校行事へ参加など)を作ることで、貧困状態の子どもの数を把握し、具体的な削減数値目標を設定

しています。

日本でも早急に指標をつくるべきです。全小学生を対象に、生活の質に関するアンケートを実施し、子どもの視点に立った貧困の調査研究をすすめる、実態を把握するよう求めました。

**学習の遅れによる
 貧困の連鎖を止める**

区の学習支援は、これまでひとり親家庭の子どもを対象にしていますが、昨年より生活困窮家庭の子どもへも範囲を広げ、「せたがやゼミナール」をスタートさせました。今後は、利用者を増やし、支援の中身を充実させていかなければなりません。より多くの学生ボランティアが支援に入れるよう、区内13大学に対し、教育実習の事前研修先として「せたぜみ」を受け入れるよう求めました。生まれ育った環境に左右されることなく、どの子どもも将来の夢がかなえられることを願います。

区民協働で「子ども食堂」の普及を

現在、区内数ヶ所の地域住民により自主的に行われている子ども食堂は、一人でも気軽に行けて、美味しいものをみんなで作って食べられる楽しい居場所です。身近にあればぜひ手伝えたいという声も多いのですが、実施場所の確保が課題となっています。区内23ヶ所の台所併設のふれあい施設をもっと活用するよう求めました。施設近隣住民の理解と協力も必要です。

災害時、乳児の命をつなぐミルク

熊本地震では、断水が長引き哺乳瓶を十分消毒できず安全なミルクを与えられない家庭へ、液体ミルク五千本を緊急輸入し保育所などで配りました。乳児をもつ親にとって、災害時の備えとしてミルクの確保は重大な問題ですが、日本では65年前から厚生労働省が乳幼児用の食品を「粉乳」と限定しているため、液体ミルクは個人輸入でしか手に入れることができません。東京都を通じて国に働きかけるなど、区でも備蓄導入できるように要望しました。

税金のムダ…世田谷清掃工場!

平成20年に稼働を始めてから7年。定期補修と故障や対策が相次ぎ、平均すると年365日のうち実に234日が稼働していない状況です(2炉合計)。有害物質は出ない最新技術の焼却工場とのふれこみで導入されたものの、「ガス化熔融炉」はダイオキシンが発生しやすい炉だったことを東京二十三区清掃一部事務組合は認めています。5月25日に行われた意見交換会では、それでも動かす理由の一つに、稼働10年以内に運転停止をすると国に補助金を返還しなければならないことが挙げられました。全額返金を避けるために、この先いつまた運転停止するかもしれない炉を動かし、世田谷区に余分な運搬費用(H27年度は補正予算で2億円を計上)を負担させることが繰り返されるのでしょうか。

市民が行う「松葉のダイオキシン調査2016」では、今回はダイオキシン類に加えて未規制有害化学物質2種(難燃剤などに用いられるPBDEと石油製品や殺虫剤、虫よけ剤などに含まれるPAHs)も測定しました。(23区南生活クラブWEB参照)

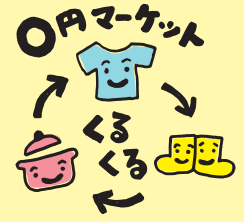
区民の分別意識を高める啓発に本気で取り組み、容器包装リサイクル法に則ったプラスチックの資源化を徹底させれば、清掃工場を減らすことはできるはず。生活者ネットワークは一貫して「ゴミは燃やさず資源化」を主張し、廃炉も視野に入れた抜本的対策と情報提供を求めています。

豪徳寺事務所に、不要品交換スペース「くるくるひろば」ができました!

家庭で不要になった衣類・食器・雑貨・文具など、まだ使えるのに仕方なくゴミにしていますか? 「くるくるひろば」は、まだ使えるモノをご近所で持ち寄って互いに見合い、あげたりもらったりできる楽しいスペースです。いつでも気軽に参加できる、お金のやりとりのないフリーマーケットを利用して、ゴミを減らし環境を守っていきましょう!



【オープン時間】
 月～金 10:00～17:00
【場所】
 世田谷・生活者ネットワーク
 事務所 玄関ホール内



あなたも会員になりませんか?

生活者ネットワークは、自分の住むまちを暮らしやすいまちにしたいと思う人々の集まりです。生活のなかで疑問に思うことを一緒に考えてみませんか? 環境・福祉・子ども・食・女性・平和など各部会への参加の他に、都・区議会報告や機関誌などの情報が届きます。講演会や学習会などのイベントに優先参加できます。サポーター会員は年会費1000円から。電話またはメールにてお申し込み下さい。

*世田谷・生活者ネットワークからの通信を、郵送でなくメール添付にて配信希望の方は、事務局までメールアドレスをお知らせください。setagaya@seikatsusha.net

カンパをお願いします。

生活者ネットワークは、市民のカンパとボランティアで政治活動を行っています。ご賛同くださる方は以下の口座にお振り込み下さい。活動費として大切にさせていただきます。
世田谷・生活者ネットワーク
郵便振替口座 00110-1-765709